
米国子会社 2 社の合併のお知らせ

- 開発・製造・販売・技術・サービスの一元化によるワンストップでの顧客対応体制の確立 -

東芝三菱電機産業システム株式会社(以下、TMEIC)(社長:山脇 雅彦)は、米国所在の100%子会社で販売・エンジニアリング及びサービスを担当するTMEIC Corporationと、同じく米国の100%子会社で開発・製造を担当するTMEIC Power Electronics Products Corporationを、2021年4月1日付で合併しました(合併後社名:TMEIC Corporation Americas)。

TMEICは2003年の発足以来、米国法人であるTMEIC Corporationを通じて、北米市場の鉄鋼や石油化学など製造業向け設備や、グローバル市場の港湾向け荷役設備などに、電機品や制御システムを幅広く提供してきました。2010年からは世界規模での再生可能エネルギー需要の高まりに先駆けて、太陽光発電システムや蓄電システム用のパワーコンディショナ(以下、PCS)のラインアップを拡充、TMEIC Corporationを通じて拡販し、2020年には米国の大規模太陽光発電用PCS分野でNo.1シェア*1を獲得するなど、ビジネスフィールドを拡大しています。

またグローバル事業体制強化の一環として、重点市場での現地製造・供給拠点の整備を進めており、米国においては、2014年にTMEIC Power Electronics Products Corporationを設立しました。日本からの技術移転を進め、米国の規格・仕様に適合したパワーエレクトロニクス製品の製造体制を立ち上げました。

今般、販売・製造両子会社を合併することにより、再生可能エネルギー用PCSやモータ駆動用大容量インバータといった製品分野において、顧客のニーズに適合した製品開発と市場投入を迅速に行うとともに、開発・製造・販売・技術・サービスを一元化した高い顧客対応力を実現する体制を構築します。また、同社は、TMEICが世界に展開する日本・インド・中国の製造拠点とも引き続き連携し、事業環境に応じてフレキシブルに対応できるグローバルなサプライチェーン体制の強化を進めます。

取締役社長 山脇 雅彦コメント:

「米国では今後も、社会・産業インフラへの大規模投資が見込まれるとともに、環境政策の強化に基づく投資拡大も期待されています。『カーボンニュートラル』社会に向け、再生可能エネルギーの普及に伴う系統安定化対策や電源安定化対策、あるいは電力消費量を軽減する省エネルギー対策など、様々なパワーエレクトロニクス技術・製品は不可欠であり、今後益々その活躍の場を拡げていきます。今回の合併新会社は、様々な市場ニーズをワンストップで受け止め、北米の社会・産業インフラに必要なソリューションを幅広く提供していきます。」

合併新会社社長 Mr. Bhatiaコメント:

「製販統合はTMEICの米国オペレーションにとって新たな可能性であり、新たなビジネスへの挑戦です。One TMEICを合言葉に事業拡大に邁進します。」

《合併新会社の概要》

商号 TMEIC Corporation Americas (TMEICコーポレーションアメリカズ、
合併を機に商号変更)

合併期日 2021年4月1日

資本金 8430万USDドル

代表者 Mr. Manmeet S. Bhatia(マンミート・バティア)

本社事務所所在地 バージニア州ロアノーク市

工場所在地 テキサス州ケイティ市

従業員数 約500名

初年度売上規模 約6億USDドル

合併当事会社

- ◆ TMEIC Corporation (存続会社)
- ◆ TMEIC Power Electronics Products Corporation (消滅会社)

*1 IHS Markit 調査(PV inverter Market Tracker Second quarter 2020)に基づき TMEIC にて算出。

報道関係からのお問い合わせ先

東芝三菱電機産業システム株式会社 経営企画本部 ブランド企画グループ <https://www.tmeic.co.jp/>

〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン Tel: 03-3277-4319 Fax: 03-3277-4578

TMEIC(ティーマイク)は、社会を支える基盤である「ものづくり」の現場ニーズにお応えするために、社会の発展と美しい地球環境とを調和させる産業システムインテグレータとして、「産業」「社会」「環境」の未来を常に見据えています。工場・プラントにおいて原動力となっている回転機、電力を変換・制御するパワーエレクトロニクス、そしてプラント全体を計画し実現するエンジニアリング、これらの技術をコアに、ものづくりと環境マネジメントに最先端の技術で貢献していきます。